

令和6年度 第1四半期（2024年4月～6月）景況動向調査結果

十和田商工会議所 中小企業相談所

1. 調査対象

(1)対象企業数 十和田商工会議所会員 25 事業所

内訳:建設業、製造業、卸売業、小売業、サービス業 各 5 事業所

(2)回答企業数 有効回答=24 事業所(回答率 96%)

2. 調査対象期間

今期=2024年4月～6月

- ・前年同月比=前年同期(2023年4月～6月)と比べた今期の状況
- ・前期比=前期(2024年1月～3月)と比べた今期の状況
- ・先行き見通し=今期と比べた来期(2024年7月～9月)の見通し

3. 調査期間 2024年6月13日～6月20日

4. 表示方法

本報告書中の「DI」とは、「ディフュージョン・インデックス、景気指数」の略で、各項目について、「上昇・増加」と回答した企業の割合から「下降・減少」と回答した企業の割合を引いた数値である。

DI値が0より上の場合=景気は上向き

DI値が0の場合 =景気は横ばい

DI値が0より下の場合=景気は下向き

5. 調査項目ごとの状況

(1) 業況DI

業況DIの現況判断は▲33.2で、業種別にみると「サービス業」が▲19.6で最も高く、「建設業」が▲20.0で続いている。

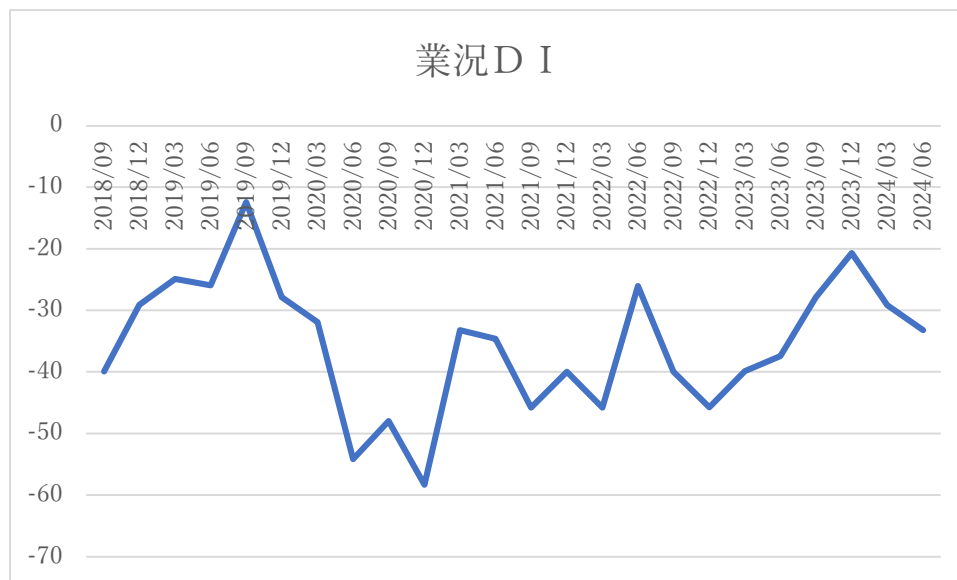
先行きは8.4p悪化の▲41.6で、業種別では「卸売業」で改善、「建設業」「小売業」で悪化となっている。

図表1 業況DI

	2024年 1~3月期 (前回調査)		2024年 4~6月期 (今回調査)		2024年 7~9月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲29.2	↘	▲33.2	↘	▲41.6	↘
建設業	▲20.0	↘	▲20.0	→	▲60.0	↘
製造業	▲40.0	↘	▲40.0	→	▲40.0	→
卸売業	0.0	↗	▲60.0	↘	▲40.0	↗
小売業	▲20.0	↘	▲24.8	↘	▲50.0	↘
サービス業	▲75.0	↘	▲19.6	↗	▲19.6	→
(参考)全国全産業	▲12.9	↘	▲16.2	↘	▲16.0	↗
(参考)東北全産業	▲21.6	↘	▲22.2	↘	▲24.1	↘

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)



(2) 売上高DI

売上高DIの現況判断は▲45.7で、業種別にみると「小売業」が▲24.5で最も高く、「サービス業」が▲39.8で続いている。

先行きは4.2p改善の▲41.5で、「製造業」「卸売業」「サービス業」で改善、その他の業種で悪化となっている。

図表2 売上高DI

	2024年 1~3月期 (前回調査)		2024年 4~6月期 (今回調査)		2024年 7~9月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲37.3	→	▲45.7	↘	▲41.5	↗
建設業	▲39.8	↘	▲40.0	↘	▲60.0	↘
製造業	▲40.0	→	▲60.0	↘	▲20.0	↗
卸売業	0.2	↗	▲60.0	↘	▲40.0	↗
小売業	▲59.8	↘	▲24.5	↗	▲74.8	↘
サービス業	▲49.8	↗	▲39.8	↗	▲19.6	↗
(参考)全国全産業	1.2	↘	▲4.4	↘	▲4.6	↘

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (増加の回答割合) - (減少の回答割合)

(3) 採算DI

採算DIの現況判断は▲45.8で、業種別にみると「建設業」が▲20.0で最も高く、「サービス業」が▲39.8で続いている。

先行きは4.2p改善の▲41.6で、「製造業」「卸売業」で改善、「小売業」で悪化となっている。

図表3 採算DI

	2024年 1~3月期 (前回調査)		2024年 4~6月期 (今回調査)		2024年 7~9月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲20.8	↗	▲45.8	↘	▲41.6	↗
建設業	0.0	↘	▲20.0	↘	▲20.0	→
製造業	▲40.0	↘	▲40.0	→	▲20.0	↗
卸売業	0.2	↗	▲80.0	↘	▲60.0	↗
小売業	▲20.0	↘	▲50.0	↘	▲75.0	↘
サービス業	▲50.0	↘	▲39.8	↗	▲39.8	→
(参考)全国全産業	▲11.9	↘	▲16.8	↘	▲14.4	↗

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

(4) 資金繰りDI

資金繰りDIの現況判断は▲16.6で、業種別にみると「卸売業」「小売業」が0.0で最も高く、「建設業」が▲19.8で続いている。

先行きは4.2p悪化の▲20.8で、「建設業」で悪化、その他の業種で横ばいとなっている。

図表4 資金繰りDI

	2024年 1～3月期 (前回調査)		2024年 4～6月期 (今回調査)		2024年 7～9月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲12.5	↗	▲16.6	↘	▲20.8	↘
建設業	0.2	→	▲19.8	↘	▲40.0	↘
製造業	▲40.0	→	▲40.0	→	▲40.0	→
卸売業	0.0	↗	0.0	→	0.0	→
小売業	0.0	→	▲25.0	↘	▲25.0	→
サービス業	▲25.0	↗	0.0	↗	0.0	→
(参考)全国全産業	▲10.6	↘	▲12.4	↘	▲12.6	↘

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

(5) 仕入単価DI

資金繰りDIの現況判断は▲83.3で、業種別にみると「製造業」が▲60.0で最も高く、「小売業」が▲75.0で続いている。

先行きは4.1p改善の▲79.2で、「建設業」で改善、その他の業種で横ばいとなっている。

図表5 仕入単価DI

	2024年 1～3月期 (前回調査)		2024年 4～6月期 (今回調査)		2024年 7～9月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲70.8	↘	▲83.3	↘	▲79.2	↗
建設業	▲100.0	↘	▲100.0	→	▲80.0	↗
製造業	▲60.0	↗	▲60.0	→	▲60.0	→
卸売業	▲80.0	→	▲100.0	↘	▲100.0	→
小売業	▲60.0	↘	▲75.0	↘	▲75.0	→
サービス業	▲50.0	↗	▲80.0	↘	▲80.0	→
(参考)全国全産業	▲64.5	↗	▲67.7	↘	▲56.8	↗

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

(6) 従業員DI

従業員DIの現況判断は0.3で、全ての業種でやや不足となっている。

先行きは横ばいの0.3で、全ての業種で横ばいとなっている。

図表6 従業員DI

	2024年 1～3月期 (前回調査)		2024年 4～6月期 (今回調査)		2024年 7～9月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	0.3	↗	0.3	→	0.3	→
建設業	0.2	↘	0.2	→	0.2	→
製造業	0.2	↗	0.2	→	0.2	→
卸売業	0.4	↘	0.4	→	0.4	→
小売業	0.4	↗	0.0	↘	0.0	→
サービス業	0.5	↗	0.6	↗	0.6	→
(参考)全国全産業	24.1	↗	21.4	↘	21.7	↗

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

6. 業況感等に関する自由記述

コメント	業種
仕入単価やコストが上昇している中、即価格転嫁に踏み切ることもできず、客単価を上げる対策(商品数を増やす、在庫切れをなくす)で様子を見ていく。賃金アップは世間一般の数値まで対応できないが、子育て世代を終えている社員ばかりなので、プラスαはボーナスで補填したい。	卸売業
4～5月完成車両入荷急増、6月以降減少の見込み。	小売業
人手不足の状態ではあるが、徐々に人員確保ができてきている。収益面では、人件費の上昇分をカバーする利益が追い付かなく、厳しい状況が続くと予測している。	サービス業
維持費の上昇と売り上げの減少で、非常に厳しい状況が続くそう。	サービス業